



菅波 茂

「人道援助の世界都市」である岡山に世界中から人たちが集まってくる。どんな人たちが集まってくるのだろうか。岡山はアジア、アフリカ、中南米などの各都市に加えてジュネーブ、ニューヨークそしてワシントンなどの世界都市とも密接な関係ができてくる。岡山にはこれらの都市と人道援助の関連で働く世界からの人たちが住むことになる。これらの人たちが岡山で快適に働くための環境として何が必要だろうか。それは家族と一緒に住めることである。その第一条件は子どもの教育環境であ

2000、8、10

インターナショナルスクール

る。それがインターナショナルスクールである。

日本人が家族連れで海外赴任する時に、まず探るのが日本人学校あるいはインターナショナルスクールの有無である。現在の中四国地方にはインターナショナルスクールはない。あるのは神戸だけである。子どもの教育が必要な人たちは神戸から岡山に通動しているのが現状である。

就こうと思うなら、インターナショナルスクールを卒業して直接に欧米の大学に進学するのも大きな選択肢である。国際社会は多民族、多宗教、多文化である。異文化の理解は最低限必要である。言葉は不可欠なコミュニケーション方法である。「情けは人のためならず」とはこのことである。

世界都市構想にとってインターナショナルスクールは基本的インフラとなる。これに国際医療協力センター、国際宗教文化センター、国際貢献大学校などが加わって「人道援助の世界都市」構想の中核施設群を構成することになる。

(アジア医師連絡協議会代表、

題字は筆者)

だけではない。もし、岡山の人たちが将来人道援助関係の仕事に